

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health)		児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	前期 後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態
演習	2	必修	手島 史子	単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）

○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1) 各領域のねらい及び内容
 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。
 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 保育内容の指導方法と保育の構想
 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【全体目標及び概要】	
幼児期の子どもの発達のあり方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。	
【一般目標及び到達目標】	目標対応
一般目標 幼稚園教育要領の健康領域を核にして、「子どもたち自らが運動あそびであそび込むことができる力を育てる」ということを実践的に学ぶ。そして、運動あそびを子どもたちが主体的・対話的に取り組むための保育のあり方を実践で可能にする資質・能力を身に付ける。	
到達目標 (1)「健康領域」を踏まえた保育のあり方を理解している。 1) 旧「健康領域」と新「健康領域」の相違を知り、今日的な保育のあり方を理解している。	(1)-1)
2) 「健康領域」のねらいを理解している。	(1)-1)
3) 「健康領域」の内容等を理解している。	(1)-1)
(2) 「健康領域」のねらいと内容及び幼児期の発達の特徴を踏まえ、幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解している。 1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解している。	(1)-2)
2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解している。	(1)-2)、2)-1)
(3) 幼児期における運動あそびの重要性とその指導のあり方を理解している。 1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を理解している。	(1)-3) (2)-1)、2)、3)
2) 幼児期の運動あそびの指導のあり方を理解し、指導案を作成することができる。	(1)-2) (2)-3)、4)、5)
3) 「おにごっこ」あそびの初期段階における実践を模擬保育で実践し、対話的なかわり方が理解ができる	
4) 運動あそびと「健康領域」の10項目の内容の関連性を理解している。	(2)-1)、2)

(4)「発達段階」という視点から、発達における「接続」について理解している。 1) 発達段階という言葉の意味を理解している。			(1)-2) (2)-1)、2)
2) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を理解する。			(1)-3) (2)-1)、2)、3)
3)「おにごっこ」あそびの必要性和発達段階に応じた指導のあり方を理解し、指導案を作成する。			(2)-3)、5)
4)「接続」という観点から、幼稚園教育と小学校教育の相違に関して理解している。			(1)-4)
回数	保育内容の指導法(健康) 授業内容【前期】 手島史子	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
1	幼稚園教育要領「健康領域」の今日的意義	(1) - 1) (2) - 1)	(1)-1)、2)
2	幼稚園教育要領のねらいについて	(1) - 2)	(1)-1)
3	幼稚園教育要領の内容等について	(1) - 3)	(1)-1)
4	健康領域における幼児期の発達の特徴 —保育場面の映像をもとに子どもの発達や状況の分析をする—	(1) - 2)・3) (2) - 1)	(1)-1)、2)
5	幼児期における運動あそびの重要性 —保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する—	(3) - 1)	(1)-1)、2)、3) (2)-1)、2)、3)
6	運動あそびと「具体的な活動を通してわかる」ということ	(2) - 1)・2) (3) - 1)・4)	(1)-1)、2)、3) (2)-1)、2)、3)
7	保育場面の映像をもとに、運動あそびと健康領域の内容の(1)から(5)をつなげる保育について話し合う	(1) - 3) (2) - 1) (3) - 1)・2)・4)	(1)-1)、2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)
8	保育場面の映像をもとに、運動あそびと健康領域の内容の(6)から(10)をつなげる保育について話し合う	(1) - 3) (2) - 1) (3) - 1)・2)・4)	(1)-1)、2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)
9	保育場面の映像をもとに、健康領域の内容(7)の考え方と指導のあり方について理解する	(1) - 3) (2) - 1) (3) - 1)・2)・4)	(1)-1)、2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)
10	教師中心の保育と子ども中心の保育について	(1) - 2)・3) (2) - 2) (4) - 1)	(1)-1)、2) (2)-1)、2)
11	保育実践報告にみる子ども中心の保育のあり方 —映像による保育実践の分析—	(4) - 2)	(1)-2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)
12	保育実践報告の映像から今日的意義を考える	(2) - 2) (3) - 2) (4) - 1)・2)・3)	(1)-2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)
13	幼児期の発達段階に応じた幼児の表現の仕方について(総論)	(1) - 2) (2) - 1)・2) (4) - 1)	(1)-1)、2) (2)-1)、2)
14	幼児期の発達段階に応じた幼児の表現の仕方について(運動あそびの面から) ICTを活用した情報収集を行い、パソコンを用いて発表資料を作成し、発表する	(1) - 2) (2) - 1)・2) (4) - 1)	(1)-1)、2) (2)-1)、2)
15	対話的保育の今日的意義とその運動あそびへの応用について	(2) - 2) (3) - 2)	(1)-2)、(2)-1) (2)-3)、4)、5)
16	子ども中心の保育と対話的保育について	(1) - 1) (2) - 2)	(1)-1)、2)
17	運動あそびにおける「対話的保育」の重要性 —映像による保育実践の分析—	(4) - 2)	(1)-1)、2)、3) (2)-1)、2)、3)
18	発達段階に応じた運動あそび(乳児期から幼児期への移行の時期を中心に)	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)	(1)-2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)
19	発達段階に応じた運動あそび(2歳児から3歳児への移行の時期を中心に)	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)	(1)-2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)
20	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび(2歳児の時期を中心に)を理解する	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)	(1)-2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)
21	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび(3歳児の時期を中心に)を理解する	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)	(1)-2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)
22	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび(4歳児の時期を中心に)を理解する	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)	(1)-2)、3) (2)-1)、2)、3)、4)、5)

回数	保育内容の指導法（健康） 授業内容【後期】 手島史子	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
23	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび（5歳児の時期を中心に）を理解する	(3) - 2) (4) - 1)・ 2)・4)	(1)-2)、3) (2)-1)、2)、3)、 4)、5)
24	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の教材作成と指導案作成 「健康」領域における ICT 機器の活用法を学び、保育構想に活かすことのできるアイデアを考える	(3) - 2) (4) - 1)・2)	(1)-2)、3) (2)-1)、2)、3)、 4)、5)
25	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践の準備	(2) - 2) (3) - 1)・2)	(1)-2)、3)、4) (2)-1)、2)、3)、 4)、5)
26	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践と考察 ビデオカメラの撮影と録画、タブレットの活用法を学ぶ	(3) - 3)・4)	(1)-2)、3)、4) (2)-1)、2)、3)、 4)、5)
27	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方（段階Ⅰの取り組みを中心に）を考える	(4) - 1)・ 2)・3)・4)	(1)-2)、3)、4) (2)-1)、2)、3)、 4)、5)
28	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方（段階Ⅱ・Ⅲの取り組みを中心に）を考える	(4) - 1)・ 2)・3)・4)	(1)-2)、3)、4) (2)-1)、2)、3)、 4)、5)
29	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方（段階Ⅳ・Ⅴの取り組みを中心に）を考える	(4) - 1)・ 3)	(1)-4)
30	幼稚園教育から小学校教育への「接続」を考える	(4) - 4)	(1)-4)
定期試験	実施する		
成績評価方法	授業感想レポート・報告（関心・意欲・態度・理解）20%、レポート（思考力・判断力）30%、定期試験（知識・理解）50%		
テキストおよび参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・高橋弥生・嶋崎博嗣編『コンパクト版保育内容シリーズ健康』一藝社 ・授業時に毎回必要に応じた資料を配付する 		
メッセージ	授業を受けながら、「自分の頭で考え・表現する」ということが当たり前のように意識しながら授業を進めます。日頃から、様々な場面で、いろいろと考えながら活動していくことを心がけてください。		

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 旧「健康領域」と新「健康領域」の相違を知り、今日的な保育のあり方を理解している。	健康領域の新旧の相違がほぼ完璧に理解している。	健康領域の新旧の相違が大きな間違いなく理解している。	幾つかの間違いはあるが、最低限の基本は理解している。	理解できていない。	授業感想レポート・報告	5%
(1)-2) 「健康領域」のねらいを理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	レポート	5%
(1)-3) 「健康領域」の内容等を理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	レポート	5%
(2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	レポートおよび定期試験	5% 10%
(2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解している。	幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解している。	基本的な触れ合いの中での保育のあり方を理解している。	対話的な保育の意味を自分なりに理解している。	理解できていない。	授業感想レポート・報告	10%
(3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を理解している。	評価の考え方を自分の言葉で述べられるまで理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	レポート	10%
(3)-2) 幼児期の運動あそびの指導のあり方を理解し、指導案を作成することができる。	発達に合い、子どもとの対話のある指導案を作成できる。	大きな間違いがなく、保育者主導ではない指導案を作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本に則って作成できる。	作成できていない。	レポート	5%
(3)-3) 「おにごっこ」あそびの初期段階における実践を模擬保育で実践し、対話的なかわり方が理解ができる。	要点をすべて意識した対話的なかわり方が実践できる。	いくつかの要点を意識した対話的なかわり方が実践できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本に則って実践できる。	理解できず、実践に結びつかない。	定期試験	10%
(3)-4) 運動あそびと「健康領域」の10項目の内容の関連性を理解している。	運動あそびと健康領域の項目を結びつけてほぼ完璧に説明できる。	運動あそびと健康領域の項目を大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、運動あそびと健康領域の項目を説明できる。	具体的に説明できていない。	定期試験	10%
(4)-1) 発達段階という言葉の意味を理解している。	発達段階を具体的な内容で正しく説明できる。	大きな間違いがなく、具体的な内容で説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解している。	理解できていない。	定期試験	10%
(4)-2) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を理解する。	自分の問いを出し、他者と検討し、発表できる。	他者と問いを出し合い、検討し、発表できる。	他者の意見を聞き、自分の考えと比較できる。	他者との意見交換・検討ができない。	授業感想レポート・報告	5%
(4)-3) 「おにごっこ」あそびの必要性と発達段階に応じた指導のあり方を理解し、指導案を作成する。	おにごっこの遊びの必要性についてほぼ完璧に説明でき、指導法について説明できる。	発達段階を自分なりに理解し、そのことを言葉で説明できる。	間違いはいくつかあるが、指導方法について自分なりに具体例を挙げて説明できる。	理解できていない。具体例が挙げられない。	定期試験	5%
(4)-4) 「接続」という観点から、幼稚園教育と小学校教育の相違に関して理解している。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。説明できない。	定期試験	5%